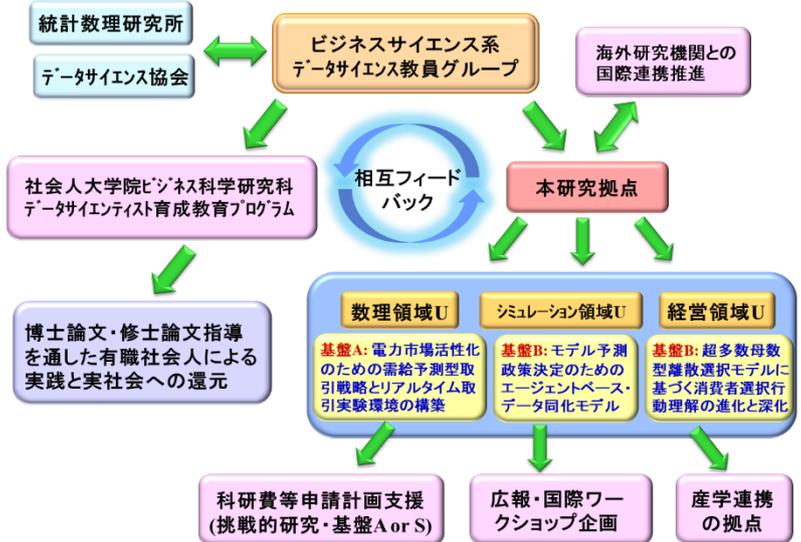


拠点名称：市場取引とオープン化を基盤とするビジネスイノベーション支援のためのデータサイエンス研究拠点の形成

拠点代表者：ビジネスサイエンス系・教授・山田 雄二

研究拠点形成計画の概要：近年、ビジネスにおける市場取引、およびオープン化によるデータの相互利用の枠組みが急速に進展している。例えば、小売電力自由化は、電力という日常生活に不可欠なものまで市場原理によって価格付けされる時代へ導き、政府もオープンな市場取引のためにデータを積極的に公開している。このように日々蓄積されるデータを分析し、新たな戦略につなげるためには、実務の理解と研究の高度化を同時に行う必要がある。本研究拠点は、実務とアカデミックの接点である社会人大学院と連携し、ビジネスと研究相互の理解を深めることにより、ビジネスイノベーションを支援するためのデータサイエンス研究推進を目指すものである。



研究拠点形成に係る研究の概要：社会人大学院ビジネス科学研究科では、本拠点教員が中心となり、平成 25 年度から「革新的な教育プロジェクト」の一環として「イノベーション創出型データサイエンティスト育成教育プログラム」を、さらに、平成 29 年度は、文部科学省高度専門職業人養成機能強化促進委託事業「有職社会人を対象とした社会科学型データサイエンティスト育成プログラム」を実施してきた。一方、ビジネスサイエンス系では、中核教員が研究代表者として、当該研究テーマに関連したプロジェクト「電力市場活性化のための需給予測型取引戦略とリアルタイム取引実験環境の構築」、「モデル予測政策決定のためのエージェントベース・データ同化モデル」、「超多数母数型離散選択モデルに基づく消費者選択行動理解の進化と深化」を実施中である。本拠点形成計画では、これら個別に実施してきた研究テーマを、ビジネスイノベーションを支援するデータサイエンス研究領域の枠組みで有機的に統合しさらに発展させるための研究拠点を構築するとともに、産学連携活動支援、ワークショップ・シンポジウム開催等広報支援、および新たな外部予算獲得支援を実施していく。

平成 30 年度は、中核教員が Local Organizing Committee & International Program Committee Co-Chair, 拠点代表者が General Co-Chair として参画する国際会議 “The 19th International Symposium on Knowledge and Systems Sciences” を共催し、特別セッション “Knowledge and Risk Management for Electricity Trading Market” をオーガナイズする。また、「モデル予測政策決定のためのエージェントベース・データ同化モデル」では、エージェント系の国際会議 (KES-AMSTA2018) にてセッションを企画しており、これらの成果を社会人大学院ビジネス科学研究科で実務に精通した博士学生や研究者との共同研究に発展させることを計画している。さらに、「超多数母数型離散選択モデルに基づく消費者選択行動理解の進化と深化」では、実務データサイエンスフィールドへのフィードバックを目指した研究のアウトリーチ活動を行う予定である。